

今号の TOPICS～副代表ご挨拶

*****目次*****

- P1 今号の TOPICS 今本 芙佐子
 P2 仲間たちの近況報告(1)
 1 班 長野 馨
 2 班 畑 寿々子
 P3 仲間たちの近況報告(2)
 3 班 松澤 淑子
 4 班 飯田 義宣
 P4 専任幹事ご挨拶 五家 正敏
 リレー随筆 青木 恵美子
 P5 私の玉手箱 永野 徹
 P6 絵画コーナー 下浦 美代
 自由コーナー 齊藤 ちづみ
 P7 写真コーナー 星田 京子
 P8 樹形ウォッチング 遊上 眞一
 P9 俳句 池田 清
 川柳コーナー 山上 恵子

◇自然と文化だより◇

4 回目の緊急事態宣言が発出された。新型コロナウイルスデルタ株が猛威を振るい、全国に蔓延した中、オリ・パラオリンピックが開催された。実施・中止の世論が分かれたが、実施されると日本を応援して、皆熱狂した。我々シニアの中には、活動が中止され、オリンピック観戦が唯一の楽しみであり、閉会した時は、オリ・パラロスに陥ったと聞いている。

内向きの生活が長引くと、肉体的にも、精神的にも悪影響を及ぼす。コロナの早期終息は期待できず、賢い対策が必須である。 Y.T



引き続きコロナ禍での活動を考える

温暖化による気候の変化、そしてコロナ禍の日常

副代表 今本 芙佐子

今年度もコロナに振り回される年になってしまった。予想どおりの展開ではあるが、種々の活動がなくなり、人々との交流も思うに任せず、会えなくなった人も多い。やりきれない思いを抱いて日々を過ごしている人も多いと思う。旅行担当としては、旅行がなくなりメインの仕事がなくなってしまい、申し訳なく思う。

さて、昨年度の自粛期間中は植物観察をしながら近所の公園や堂島川を歩いたが、圧倒的に外来植物が多いことに気づいた。道場で初めて見つけたキヌゲチチコグサは、今まで気が付かなかっただけで実は公園に蔓延っていた。

今年度の自粛期間中は、なかなか会えない高校の同級生とラインで互いに近況報告をしている。田舎に住んでいる友人の便りは季節の変化を感じさせるものが多い。蛍を見に行ったら、ハナショウブが咲いた、トマトを植えた、カサブランカが咲いたなど。シクラメンの種を植えたら花が7月に咲いたとの便りも。都会の喧騒、暑さの中で生活している私にはちょっとうらやましい。しかし、畑で色んなものを作っている友人は、天候不順に振り回されたり、あまりの暑さで畑仕事ができなかったり、水やりが大変だなどと嘆いている。

その田舎も 10 年ほど前の水害で大きな被害が出て、植生がかなり変わってきた。どこにでも普通に生えていたホトケノザはヒメオドリコソウに負けそうになっている。子どもの頃にはどこにでも普通に見られたウツボグサや、オドリコソウは密を吸って遊んだりしたものだが、今はほとんど見られない。アメリカフウロもあちこちに見られる。我が実家の花畑には、アメリカセンダングサやアレチヌスビトハギが蔓延って作業の邪魔になる。またアメリカネナシカズラが侵入して来て、あらゆる花に巻き付いて、まるで黄色い網をかぶせたように見える。家の表の庭にはいつの間にかイタドリが生え、大木のようにになっているし、クサギやヌルデも勝手に生えてきている。それぞれ何か原因があるのだろうが、今のところなぜそれが増えたのか不明である。

植物たちは我々が知らないうちに地球温暖化という環境に上手に適応し、防御をして、たくましく生活圏を広げている。人間だけがひ弱なのかもしれない。コロナに負けないためにも、我々人間も英知を絞り新しい生活パターンを求めていく必要があるのだろう。

家庭菜園作業の毎日



ここが畑

100 m程の素晴らしい環境の畑です。

しかし後で分かったことですが獣害が大変で、地上はサル、シカ、イノシシ、アライグマ、ハクビシン、野ネズミ、地中ではモグラ、空からはカラス、ヒヨドリ、ハト、スズメ等で被害に会ったときはストレス発散どころかカッカ カッカです。

菜園作業は初めてなので育てやすい物から始めて12年になります。自分が育てた野菜の収穫時の充実感と食した時の味は格別で堪らなく最高に美味しいです。



トマト

5年前より高齢のため世話が出来なくなった隣の畑を無料で120㎡、昨年より175㎡を追加で借り現在300㎡程に広げ数えてみると年間50種余りの作物を作っています。

今年、黒ニンニク作りを始めたのですが鍋に隙間があったので菊芋と一緒に入れてみたのですが、驚くほど甘さが増しオヤツ代わりに食べられる程美味しく出来たのが新発見でした。

しかし素人の菜園です、毎年巧く行くとはいりません。その原因はたぶん肥料のやり過ぎだと思います。収穫後の畑にどれだけ肥料が残っているかを全く把握せず植え付け度に有機堆肥をメインにはいるのですが追加・追加を繰り返しています。

この堆肥での失敗談ですが、未熟成の腐葉土を多くすき込んだためミミズがわきそれを食べに集まったモグラが畑中にトンネルを作って作物が枯れる大被害にあいました。

近所付き合いが少ない会社人間がリタイヤすると人との付き合いが殆んどなくなった私には自然大学校で新たに出来た仲間は本当に有難く、ちょっとやり過ぎのため腰を痛めたりはしていますがこの素晴らしい環境の菜園で毎日を過ごすことが出来ることを幸せだなーと感じている昨今です。



物置小屋

6代目の(=^・^=)猫

2班 畑 寿々子

出会いは2018年10月15日、抗がん剤開始から3か月目通院途中の川の土手で、6代目となる三毛色の生後3か月位と思しき子猫を拾った。

それは乳がんになって活動も出来なくて、又10年ぶりに猫を飼ってみたいと考え始めていた矢先の頃だった。最近では捨て猫が少なくなって良いことだけど、買うとなったら20万円はするらしいと聞き躊躇していた矢先、神様のお恵みというほかないタイミングで、欲しかった初めての三毛色の子猫が捨てられていた。



1代目はキジトラで賢い猫だった。2代目は茶虎で綺麗な猫だった。3代目は黒ネコで臍の尾を付けたまま捨てられていて手のひらに乗る大きさで黒ネズミかと思った。わが子にもしなかった育児日記をつけるようになって、よく目が見えるようになった、走るようになった、ソファに登れるようになったとか書いて喜んでた。4代目は白に黒の水玉の猫。この子もスポイドでミルクから世話をした。この子が1歳くらいの時、私の枕元にやたら寄り添うのでおかしいなと思ったら、子猫の口が出てきていてビックリ！お産が始まっていることに気が付き、バスタオル、ハサミ、糸などを用意（その頃私は産婦人科勤務）している間に、スルッと生まれ、けなげに母猫となって赤ちゃん猫を舐め始めた。この子は珍しく一人子で全く母猫と同じ模様の5代目猫であった。

そして今この三毛猫6代目、1年間はとてもやんちゃで台所シンクでいたずらしたり、壁の物をジャンプして落としたり、いたずらばかりで手を焼いたが2年目からはずいぶんいたずらが減って大人しくなった。

年寄りの世話とマンション猫では運動遊びが足りないのではと心配したが、最近では運動能力も抜群で、3階のマンションベランダの手すりに飛び乗り、行ったり来たりして私や下の歩行者をヒヤヒヤさせている。またよく眠るが、どこで寝ているのか決まらず、押し入れ、物置、かご、洗濯機の中、ベランダ、ベッドの中といつも変っていて、探すのに苦労する。また食べ物に好みが多く世話を焼かせる。なのに愛おしい。なぜか！鳴き声が可愛い。いつも手を揃えているフォルムが美しい、立ち居振る舞いが美しい、白色は純白、毛はモフモフ可愛い、それなのに呼んでも犬のようには来てくれない、出かけようとするとき靴下やズボンを噛んで邪魔をする。でも癒される猫の存在は、私の健康のアニマルセラピーになっていることに間違いない。私は3年生き延びた。

街中の植物たち

3 班 松澤 淑子

春、桜前線はいつもの様に、南から日本中を染めつくし5月15日には北海道に到着。

その頃、関西では緑の樹々がやわらかな風に葉を揺らしながら明るい季節の到来を告げていました。巣ごもり生活の中、スーパーへ行くまでの道や普段通る道端には、さまざまな野生植物、いわゆる雑草が勢いを増して輝きを増していました。

灼熱のコンクリートや植え込みの隙間、空き地、道路沿いの鉄製の側溝の中にも光を求めて頭を覗かせています。

お馴染みのカタバミ、セイヨウタンポポ、シロツメクサ、ドクダミやニラも綺麗な花を咲かせていました。子孫を残す為の様々な戦略をみせてくれます。

＜ヒメツルソバ＞

森の中では、光、養分の奪い合いになりますが、街中の空き地に真っ先に根を下ろし、横にも拡がり、一斉にピンク色の花を付けます。花が枯れても色素を残し、華やかに装い虫や鳥をおびき寄せます。見事な生き残り戦略です。

＜ムラサキカタバミ＞

お馴染みのかわいい花ですが、花粉は無く、クローンで子孫を増やします。つい、手に取りたくなくて引き抜くと、根っこ（鱗茎）が周りに散らばってしまいます。また、分身がふえました。大成功です。

＜ナガミヒナゲシ＞

オレンジ色の大きな花を、幹線道路沿いや、駐車場で見かける事が出来ます。コンクリートの隙間からも元気に育ちます。環境が悪くても、小さくなって、花を咲かせ、子孫を残します。車のタイヤにくっついて種を運んでもらう街と相性の良い植物です。

ツククサ、イヌノフグリ、オオバコ足元には素敵な世界が広がっています。



趣味遍歴

4 班 飯田 義宣

新型コロナウイルスに振り回されているこのごろ。予約奮戦を経て、やっと予約が取れたワクチン接種、三週間後二回目を。しかし、100%安全ではないという。強烈な感染力を持つデルタ株が現れたと報道されている。

計画された活動予定も、緊急事態宣言により次々と中止に追い込まれ、カレンダーから金曜日の予定が消えた。テレビに向かう時間が増え、椅子の生活、目に見えて脚力が衰えていく。気休めにテレビ体操をやっている。空白の予定表、唯一水曜日にボーリングに取り組んでいるが、それもクラスターに巻き込まれないか、びくびくもの。

疎遠だった畑に行くことが多くなった。草との戦いだ。特にヤブガラシそれにチカラシバが厄介だ。取っても地下茎が残っているので、すぐに生えてくる。チカラシバはしっかり根を張っているので、なかなか引き抜けない。熱中症に注意して奮闘している。

畑、ボーリング、マジックもそうだが、以前、趣味10個に挑戦していた。(京都教育大蜂須賀さんの講演会を聞いて。定年後充実した生活を送るには10個の趣味を！)

羅列するとスキー、カメラ撮影・現像、ラジコン飛行機製作と操縦、カヌー、ヘラ釣り、小林寺拳法、大型バイク、定年後はゴルフ、平安京探索・ガイド、シニア自然大学校。今でもスキーは続けている。ニュージーランドマウンテンクックのヘリコプタースキーやオーストラリアスキーが印象的。今シーズンはびわ湖バレイでのみ。

カヌーは、四万十川、長良川、古座川、宇治、木津、など。シーカヤックは、天橋立湾伊根、英虞湾、日生から牛窓、印象的なのは、山陰海岸ジオパーク。荒波でできた洞門探検をして網代港から浦富、浜坂、余部香住まで三泊して。洞門の中でも旭洞門が、真の闇の中、細い岩穴を通して教会のドウムを思わせる空間にでる。透き通った海水、太陽光線。錯覚だと思うがここで空中に自分の艇が浮いているという不思議な体験した。自然に溶け込む。パドルで水面をたたき音しか何もない世界。今こうしてワードに向かっていられるのは趣味に徹したこと。特に静・動の活動をカリキュラムしたシニア自然大学校に所属したからか。

コロナ禍収束後の社会貢献活動とは

2班 五家 正敏

長引くコロナ禍で日常がすっかり変わってしまった。残念ながら社会貢献委員会としての活動はこの1年半皆無となった。多数の人が集まるイベントは中止、濃厚接触する機会は自粛し、感染予防に努めるためには仕方がない結果であった。ステイホームはいつの間にか日常となり、積極的に活動していた頃が懐かしく感じられた方も多いのではないだろうか。

親しい仲間とも会えず、食事を楽しむこともなくなった。マスクの息苦しさで苦痛を感じる日も多い。ワクチン接種についても予約電話やネットがつながらないことが何と多かったことか。誰でもが感じていた「ふつうの生活」がなくなり、これまでのふつうの生活は一体何だったのかと考えることが多い。



コロナ禍では市民農園での畑作業と本を読む機

会が増えた。印象に残った本に『土偶を読む』がある。「土偶は女性をかたどったもので、自然の豊かな恵みを祈って作られた」というのが一般的なイメージである。筆者は「土偶は縄文人が当時食べていた植物や貝類をかたどったフィギュアである」との斬新な説を展開している。ハート型土偶はオニグルミ、合掌土偶・中空土偶はクリ、縄文のピーナスはトチノミ、遮光器土偶はサトイモをかたどっている。縄文時代は一万四千年間という長い歳月を指すだけに、多様な形や顔が存在することは何となく理解できる。しかし、代表的な土偶をみてみると女性はおろか人間にすらみえてこない。かねてこうした疑問を持っていただけに筆者の新説に引きつけられた。

大勢の人が信じているものが正しいとは限らない。物差しはいっぱいある。考古学者でない筆者が通説に違和感を持ち、土偶に対して新しい角度でアプローチをしている。社会貢献委員会の課題である「社会貢献活動とはどうあるべきか」についても同様のアプローチはできないものであろうか。とりわけ、コロナ禍収束後の活動はどうあるべきで、どのように進めていったらいいのだろうか。新たな発想で見直しを進めるべき時期にきているように思う。

野菜畑から見えてくるもの

4班 青木 恵美子

昨年、四方を背の低いネットで囲みスイカを育てている近所のおじさんが収穫しようと畑に来られたら、ネットが倒され畑のスイカも食べられていた。「きょう収穫しようと楽しみにして来たら、先に食べられた。」と口惜しそうに話をされていた。どうやらアライグマの仕業らしい。今年、スイカは植えられなかった。色々対策をして植えておられたが、「敵もさる者」一枚上手であった。

コロナ禍 2 年目の今年は家庭菜園をする人が増えてきているのか、ホームセンターでは、夏野菜の苗を購入している人が多かった。サツマイモの苗が品切れになっているのにはビックリした。

5 月、わが家の畑に数種類の野菜苗を植えた。その中でオクラやゴーヤの植え付けには苦労した。ネキリムシに食べられたり、夜の低温で枯れたり、強風で茎が折れたりした。2、3 回植え直した。トウモロコシ、ミニトマト、キュウリ・・・等は余り手が掛からず水や肥料をやるだけで大きく育った。

6 月下旬、トウモロコシの雄花・雌花がみられた。例年なら 7 月初旬頃である。ズッキーニは大きな実をたくさんつけた。

7 月初旬、トウモロコシの実も大きく膨らみぼちぼち収穫しようかと畑に入ると、トウモロコシの茎が 2 本倒れているではないか！アライグマかと一瞬思ったが、2 本というのもおかしいと思いよく見ると 1 本は実がもぎ取られていた。もう 1 本はもぎ取られた後、皮をむかれ食べられていた。これは、アライグマならぬ人の仕業？かも・・・。悲しいやら情けないやら。おまけに高温が続いたせいか、キュウリ・ピーマンの生育が悪く葉が枯れている部分もあった。熱中症に注意と毎日のように報道されている中で厳しい環境に置かれていると言えよう。

8 月中旬、長雨でキュウリは枯れた。一方、オクラとサツマイモは元気である。野菜の生育に今までには、みられなかった様々な事が影響し収穫時期がずれてきているように思われる。また、困ったことに以前と比べ、ヘクソカズラ、カニクサ、ハゼランなどが増えて来ている。



センニチコウ

畑の片隅にセンニチコウを植えているが、この花だけ夏の暑さに耐えて咲き誇っている。

瞑想と科学

2 班 永野 徹

〔1〕はじめに

現在、「宗教と科学」は「情緒と理性」と言う対立軸で捉えられているが、古代において宗教者は宗教は勿論、文学・医学・天文学・社会学全般について万能者であったのではと推測します。釈迦然り、キリスト然り彼等は現在に当てはめるとあらゆる分野のノーベル賞を独占できるほど優能な人物であった可能性が高い。私自身は殆ど無宗教に近いにもかかわらず、仏教で言う「解脱・悟り・空」とはどのようなことを意味するのか、素人でも容易に理解できる方法が有れば有難いものです。

〔2〕瞑想と宗教

有名な歴史家アーノルド・トインビーが来日していた時「現在西欧文明の危機を救える唯一の方法は東洋に伝わる瞑想である」と述べ、特にヨーガ・禅・密教・道教に関心が深かったとの事です。仏教に座禅を組んで瞑想する観相学があり、「仏教の原点は瞑想である」と言われる。お釈迦様も6年間に及ぶ艱難辛苦の修行で何も得られず、最後に菩提樹の下で座禅を組み呼吸を整えて心に天地自然を観ると言う瞑想により、ある日突然大きな境地が開かれたとの伝承有り。このお釈迦様の悟りの境地を密教では「無識身三昧」（あらゆる想念がなくなる）と言い、この時秘密仏が現われ「五相成身観」（ごそうじょうしんかん）を授けたと言う。仏教の瞑想は解脱の知恵を得る為に行う、即ち「戒定慧の三学」と言って日常生活で戒を保ち、瞑想で心の定（じょう）を得る事で智を悟る事ができると説く。密教の観相ではお月様の中に金剛杵を観じる。即ち、最初は曇った状態のお月様が観え、段々と晴れ上がり金剛杵を観じるらしい。更に広観斂観と言い、観相中のお月様を広げたり、縮小できるようになると言う。密教では満月の中にオームと言う梵字を観じる事で沈空静寂を破った境地が開ける事を「阿字観法」と言うようです。阿字観は調心・調息・調身の三要素からなり、ヨーガでリラックス調身し、呼吸法で調息して気の充実を図り調心を得ると言う。

〔3〕瞑想と科学

例えば、瞑想ワープ技術で未知の世界に入り込み、宇宙の端はどうなっているのか、ブラックホールの中はどうなっているのか、三途の川を渡る時お花畑が見れるのか、56億7千万年後に弥勒菩薩の世界は成立しているのか…等について未知の情報が得

られるから。アインシュタイン博士も瞑想で宇宙の端まで旅をして、光がブラックホール近くで曲げられる事を観じて「一般相対性理論」を閃き、理論的に裏付け数式化できたのではと邪推。光速に近いスピードで宇宙旅行をすると時間が伸びて地上に帰還した途端に300年後の世界になっていると言う「浦島太郎物語」もアインシュタイン博士の相対性理論で説明できるとの事。光速（30万km/s）はプランク定数式から導き出され、宇宙にこれ以上速いものは存在しない絶対速度と提唱されているが、宇宙誕生ビッグバン直後の「1秒間の膨張スピード」は光速を遥かに超えるので全く異なる物理学が必要。

〔4〕自然界の不思議

「宇宙は有限か無限化」については「私達の住む宇宙は137億年前にビッグバンで誕生して現在も膨張中である」ことから有限と言う事になるが最新の宇宙論では、私達の住む宇宙と同じような宇宙が無数に存在するらしいので宇宙は無限大と言う事になりますが無限大は認識できない。中国では古来より八は万能を表す数字で、昔から宇宙は八つの基本要素でできていると言われてきたようです。夢殿の八角形は無限を発想したものであるとのこと。因みに数字の8を横にすると∞無限大となります。最近の宇宙論では11次元で宇宙を表せるとの説もある。論理数学が現実の科学世界と深い関わりがある事も多く、素数の数列和が原子核とか電子軌道の取る不規則なエネルギー軌道を表していたり、素数の特異性が暗証番号として最高級のセキュリティ分野に活用できると言われる。

〔5〕インド人のゼロ発見

数字のゼロの概念はインドで発案されたものです。

インド数学は祭祀と関連して起こり天文学と並行して発達しました。インド人は数に関する感覚が極めて敏感で巨大な数や極小の数が宗教経典や文芸作品にしばしば現れる。これはインド人の空想性と分析性を示しています。このような思考力から紀元前2世紀頃には「零（ゼロ）」の概念を発見しています。零はサンスクリット語でシャーニャ（空という意味）と表示されます。インド人は早くから十進法の位取りを採用して分数表現方法も発明した。ゼロと言う数字は数学の世界で大変重要な数字であると共に現実生活に欠かせない実に貴重な数字である。

アルル郊外 <http://sizentobunka.jp/kaiga/index.html> (拡大する)

2班 下浦 美代



自由コーナー

ショクダイオオコンニャク

2班 齊藤 ちづみ



京都府立植物園で7月16日に開花し、16、17両日に同園で公開された。

花が咲いたのは国内で21例目で、同植物園では、1993年に栽培してから初めて。

高さ2.3メートル、直径1.3メートル

この植物はインドネシアのスマトラ島原産。

特徴は大きさだけではなく、「腐った肉」にも例えられる独特の臭いを放ち、花粉を運ぶ虫を誘い込むことでも知られる。

秋の彩・・・乗鞍

2班 星田 京子



ダケカンバ(黄葉)・ナナカマド(紅葉)・ハイマツ(緑) 遠方には中央アルプス・南アルプスが眺望できる



👉
ツタウルシ

👉 ズミの実 透明感がきれい！

アオノリュウゼツラン (青の竜舌蘭)

4 班 遊上 眞一



2015 年 雲雀丘 高崎記念館にて。葉は硬く、厚く、トゲがいっぱいです。テキーラの原料に。



2021 年 6 月 3 日。 50 年間の生涯に一度限り花茎を 7m ほど伸ばしてきました。



6 月 30 日。花茎が横にも長く伸びてきました。



6 月 30 日。花茎が横にも長く伸びてきました。

7 月 18 日。花茎を伸ばし始めてから約 2 ヶ月。花は下から咲き上がってきました。



8 月 3 日。花は開花から 2 週間で 散り始めました。 散り始めるやいなや、葉はすぐに枯れてきました。しかし子孫を残そうと、開花前に新しく子株を、左奥に作っています。



俳句

- ・秋晴や駅にリュックの色溢る
- ・指触るだけで零る萩の花
- ・小さくとも確かな飛翔秋の蝶
- ・里山を守る人あり栗たわゝ



俳句

- ・神の留守とて出雲への一人旅
- ・水が湯となりぬ酷暑の身にじわり
- ・片仮名の名が連なりぬ流星群



川柳

- ・命より五輪大事にした政府
- ・安全安心の言葉溢れて溺れてる
- ・全世界コロナに負けてなるものか



活動が2ヶ月も中止となりましたが、皆様のおかげで、区切りの良い50号を無事発行することができました。ありがとうございます。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。 広報委員会